

きつすぎたり、大きすぎるという実感から、ゆるみの必要性和適量性に気づいたようだ。

㊤ 箱と同じ大きさの布は、(横まわり×たてまわりの半分)である。

——この考えに到達した様子を教師の発問と児童の応答から、とらえてみる——

T<sub>1</sub> 袋を作る前は、「箱を紙で包んで袋を作る」と考えた人は3人だったのに、実際はこの考えで作った人がたくさんいました。どうしてですか。

C<sub>1</sub> 計算していたらめんどくさくなつたから。

C<sub>2</sub> 箱の横2つと、高さ2つ分をたしたら、包むのと同じだと思ったから。

C<sub>3</sub> 包んでみたらうまくいったからです。

T<sub>2</sub> (さいほう箱を持ちながら)「横のぐるり」

を「横まわり」といいます。(メジャーで測りながら「縦まわり」も説明する)

箱にぴったりの布を、横まわりと縦まわりで表わせないでしょうか。

C<sub>4</sub> 横まわり×縦まわりかな?

C<sub>0</sub> (ガヤガヤする。)

T<sub>3</sub> (児童たちの考えどおり、さいほう箱を横まわり×縦まわりの布で包んでみる)

下の図 資料1参照

C<sub>0</sub> あっ、箱が2つもはいる。(みんな驚く)

C<sub>5</sub> 縦まわりの方は、半分でもいいのではないかな。

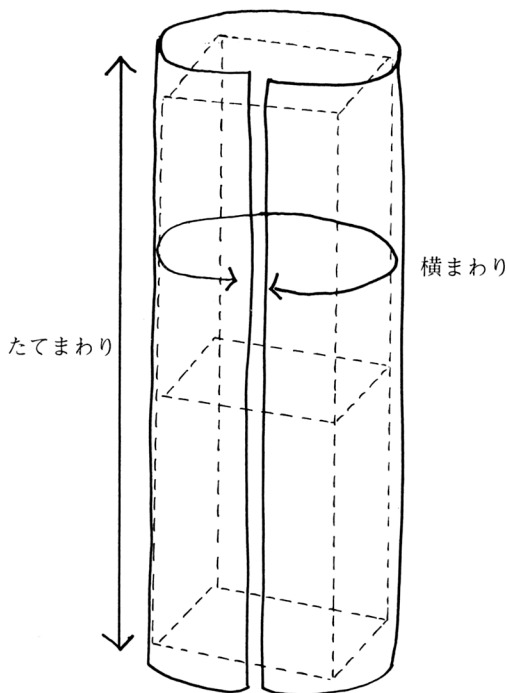
T<sub>4</sub> (資料2のように、箱を布で包む。)

C<sub>0</sub> ちょうどいい。

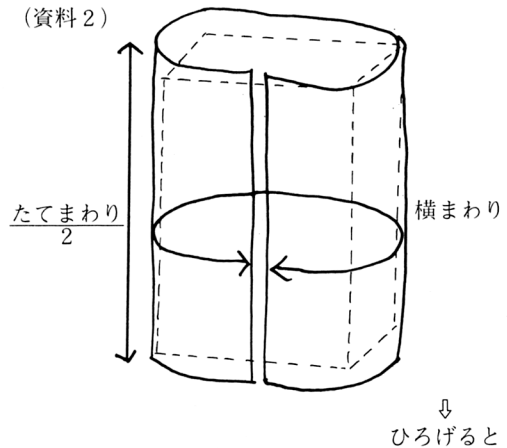
C<sub>6</sub> 横まわり×たてまわりの半分でいいのだ。

T<sub>5</sub> (横まわり×たてまわりの半分の布をひろげて板書する。—資料3)

(資料1)



(資料2)



(資料3)

